

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報
【第24号】

発行人 深澤 弘 二
事務局 長野市西長野6ノロ
信州大学教育学部内
TEL・FAX (026)238-4370



会員の連携を深め 事業の一層の充実を

同窓会会長

深澤 弘二

ようやく麗らかな春の日差しを満喫できるようになった頃、二年生(小学校)の遠足の引率をする機会を得ました。昼食時、傍らにいた一人の女の子が、「デザートないんですか。それなら、私のを一つあげます。」と、リングを勧めてくれました。

遠足と言えば「おにぎり遠足」と決めていた私は、デザートや菓等は用意せずにいたのですが、この子にしてみると、楽しみの一つのデザートを持たないことが、気の毒に感じられたのかもしれない。優しい心遣いに感謝しつつ、一切れ戴くことにしました。

まだまだ幼さの残る二年生ですが、他者への温かな思いやりの心をもつことに感動すると共に、このような子どもを育てていきたいと改め感じたのでした。教育学部に在籍した頃の私達は、皆このような思いで、教員生活に対する夢や希望を抱いていたのではないかと思います。如何でしょうか。

昨年度の教員採用状況では、私共と同様の思いをもちな

がら、教職に就くことが叶わなかった学部卒業生が多数いたとのことです。

少子化時代・緊縮予算等々による人員削減により、力はあるても正規教員として採用されない後輩が、一層増えることが懸念されます。

そのような中であって、バンクーバーで開催された冬季オリンピックでは、小平奈緒さん含め、三人の同窓会員が大活躍をされたことは、私共にとりまして大変大きな喜びでありました。本会としても壮行会開催に協力をし、終了後早々に報奨の意を表しましたが、会員相互の関わりを大切にするこの必要性も強く感ずるところでありました。

同窓会では、本年も八月に総会を開催し、合わせて会報を送付して会員各位に近況等を報告いたしております。同窓会や教育学部の現状をご理解いただくと共に、学部の一層の充実・発展、教職を目指す学部生の就職活動支援、そして会員の連携を一層深めたいと願っております。皆様の力強いご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。次第であります。

第十二期同窓会役員名簿

(平成二十一年八月～平成二十三年八月)

名誉会長
顧問

平野吉直
倉田 稔
矢嶋直徳
中田宣彦
町田 修
深澤弘二

新井好仁
佐野昌男
三寺勝美
玉川隆雄
清水 正
中田育成

会長
副会長
監事
本部理事

中沢 寛
清水厚実
片山安廣
中村浩志
岩田 靖
伊藤冬樹
下伊那
上伊那
諏訪
北安曇
松本
上小
上水内
須坂上高井
飯山下水内
中野下高井
塩筑
長野
高校
県外

酒井 義
竹松徳門
西脇育子
上條 厚
茅野公穂
酒井英樹
太田美恵子
赤羽貞幸
別府 桂
酒井英樹

地区理事

清水貫司
久保田延幸
藤森宏一
木曾
郡上典雄

五十川崇
安曇野
百瀬新治
平出幸子
佐久
片桐 厚
千野明雄
更埴
中島 敏
村松勝視
宮下芳一
小林和人
高坂光浩
古厩 一
増田秀晃
春日一俊
功刀道子
井出良子

幹事

寺島正友
中村直人
北原幹久
綿内良子
齊藤忠彦
宮澤昌道
安達仁美
杵渕恭宏
伴真理子

事務局



◀新しくなった中学校舎

第二十二回 同窓会通常総会報告

平成二十一年度の同窓会通常総会は、八月十一日（火）、長野市岡田町の「ホテル信濃路」において、四十九名の出席を得て開催された。

寺島正友幹事の進行のもと、綿内良子幹事の開会宣言、町田修会長の開会挨拶の後、議長団に、内山文人、中島敏、議事録署名人に、池口隆、小林和人の各氏を選任、書記に酒井英樹、安達仁美の各氏を任命して議事へと移り、次の三議案について審議された。

● 第一号議案

平成二十年度事業報告書、歳入・歳出決算及び財産目録の承認について

総会資料に基づき杵渕恭宏事務局長より平成二十年度事業について、別府桂幹事より平成二十年度歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明がされた。また、清水厚実・竹松徳門監事より適正に処理されているとの会計監査の結果が報告され、全員一致で承認された。

● 第二号議案

平成二十一年度事業計画書（案）及び歳入・歳出予算（案）の承認について

総会資料に基づき杵渕恭宏事務局長より平成二十一年度事業計画（案）について、別府桂幹事より平成二十一年度歳入・歳出予算（案）についての説明があり、全員一致でこれを承認した。

〔平成二十一年度事業大綱〕

一、同窓会報（第二十三号）発行、会員、特別会員への郵送

二、研究助成 教育学部留学生後援会基金へ拠出、教育研究に対する補助、学生課外活動への補助



第22回同窓会通常総会 会長挨拶



記念講演会 高橋 基氏

三、学部後援 学部・大学院充実に向けての援助、就職活動の支援

四、組織充実 支部組織の強化、地区代表を通して卒業生の会費未納者への納入依頼、退職新任校長未納者への納入依頼、在学生未納者への納入依頼五、長期構想 「信州大学同窓会連合会」への参加、大学六十周年記念行事への協力、総会のあり方、基本財産の運用、個人情報取り扱い、HPの充実

平成20年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成20年4月1日
至 平成21年3月31日

歳入合計額 5,638,418円也
歳出合計額 4,912,267円也
差引残額 726,151円也 翌年度へ繰越

〈歳入の部〉

項 目	予 算 額	決 算 額	増・△減	備 考
1 前年度繰越金	478,887	478,887	0	
2 会 費	5,820,000	5,140,000	△ 680,000	257名入金
3 雑 収 入	30,000	19,531	△ 10,469	利子・御祝儀
歳 入 合 計	6,328,887	5,638,418	△ 690,469	

〈歳出の部〉

項 目	予 算 額	決 算 額	増・△減	備 考
1 会 議 費	580,000	364,242	△ 215,758	総会・役員会等
2 事 業 費	1,080,000	1,023,092	△ 56,908	会報・学部後援等
3 事 務 費	1,765,000	1,553,813	△ 211,187	会報発送・印刷等
4 事務委託費	1,806,000	1,806,000	0	雇用費等
5 雑 費	200,000	165,120	△ 34,880	連合会会費・謝恩会御祝儀等
6 予 備 費	897,887	0	△ 897,887	
歳 出 合 計	6,328,887	4,912,267	△ 1,416,620	

● 第三号議案

第十二期役員の改選について

町田会長より会長選挙について諮られ、深澤弘二副会長が新会長に選出された。町田会長より、中沢寛・酒井義・太田美恵子会員を新副会長に推薦され、全員一致でこれを承認した。深澤新会長より、配布資料によって、監事・理事・幹事が推薦され、全員一致でこれを承認した。深澤新会長より、町田修前会長の顧問就任の披露があった。

議事終了後、臨席の高橋渉氏（教育学部副学部長）より祝辞をいただき、綿内良子幹事の閉会宣言で総会を終了した。

ご挨拶

教育学部長 平野 吉直



本年四月から岩永恭雄先生の後任として、教育学部長に就任しました平野吉直です。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

同窓会および同窓会員の皆様には、日頃から信州大学教育学部の運営と学生の勉学に対して、多大なご理解とご支援をいただいています。教育学部教職員を代表して、心から感謝申し上げます。

昨年度末から今年度初めにかけて、教育学部・同窓会にとって、とても明るく誇らしい出来事がありました。それは、二名の教育学部卒業生と一名の教育学部生のバンクーバー冬季オリンピックでの活躍です。選手の都合によって壮行会は二回に分けましたが、それぞれ同窓会からのご支援に加え、同窓会長からは選手へ熱い激励のスピーチをいただきました。

オリンピック終了後の三月二十二日に開催された教育学部・工学部の合同の卒業式では、山沢学長から三人の功績を称える挨拶がありました。また、四月六日の信州大学入学式の間では、スピードスケート四種目に出場し女子団体追い抜きで銀メダルを獲得した小平奈緒さん、男子リージュ一人乗りに出場した小口貴久さん、女子リージュ一人乗りに出場した原田窓香さんの三選手が揃って表彰を受け、大きな銀メダルを持参してくれた小平さんからは、入学生に対する激励の挨拶がありました。教育学部長に就任したばかりで、緊張と不安に包まれていた私にとって、教え子たちのこうした活躍は、自分のことのように嬉しく、また心を和ませてくれる大きな出来事でした。三人の活躍を改めて称え感謝したいと思っています。

さて現在、国立の教員養成大学・学部は、これまでにない岐路に立たされています。民主党政権下における教育行政の改革のうち、教員養成制度の改革では、教員養成六年制が検討され、併せて免許法の大規模な改訂も検討され始めています。全国の国立教員養成大学・学部は、これらの情勢を踏まえながら、ここ数年で大きな改革が求められることになりました。

信州大学教育学部においても、大きな変革の流れの中でのんびりと漂っているのは、座礁・沈没のリスクも考えられ、将来の進展に向けた確かな取りが緊急の課題です。こういう重要な時期こそ、慌てふためかないで、信州大学教育学部のこれまでの実績や特色を見極め、教育学部としての本質を見失わないように心がけていきたいと思っています。教育学部の教職員、長野県教育委員会、同窓会をはじめ教育学部を応援していただいている関係者の方々の意見を聞き、また協力をいただきながら、年末までには今後の方向性を定めていくつもりです。

最後になりますが、教育学部がどう変わろうとも、質の高い学校教員を輩出するという教育学部の使命は変わることがありません。さらなる少子化が進む中で、質の高い入学生を確保し、そして数多くの有能な学校教員を育てていくことを怠らないようにしたいと考えています。特に卒業生の教員採用率は、全国の教育学部の順位がひと目で示され、教育学部を評価するわかりやすい基準です。「良い教育学部」高い教員採用率」という単純な評価が、世間一般にはあることを自覚し、教員採用率を高める努力をしていきます。これまでも同窓会からは、教員採用に向けての模擬試験の実施などに多大なご協力をいただいています。今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

学部の新任・転退職教員の紹介

【平成二十一年度～平成二十二年度新任教員】

八木雄一郎先生（言語教育講座）

高柳充利先生（大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム）

岩男考哲先生（言語教育講座）

藤崎聖也先生（社会科学教育講座）

竹下欣宏先生（理数科学教育講座）

昆 万佑子先生（理数科学教育講座）

小松孝太郎先生（理数科学教育講座）

増子 潤先生（生活科学教育講座）

友川 幸先生（スポーツ科学教育講座）

【平成二十一年度転退職教員】

新谷勝造先生（芸術教育講座）

昭和六十二年二月一日着任、死亡退職

梅原恭則先生（言語教育講座）

昭和六十一年四月一日着任、定年退職

齊藤寛海先生（社会科学教育講座）

昭和四十八年五月一日着任、定年退職

中西公一郎先生（教育科学講座）

平成十二年四月一日着任、退職

熊谷 哲先生（生活科学教育講座）

平成十五年四月一日着任、退職

藤田英樹先生（芸術教育講座）

平成十年四月一日着任、島根大学へ転任

島田 希先生（大学院教育改革支援プログラム）

平成二十年四月一日着任、任期満了退職



バンクーバー五輪での 同窓生の活躍

今年二月に行われた第二十一回オリンピック冬季競技大会（バンクーバー）に、信州大学教育学部同窓生である、小口貴久さん、小平奈緒さん、原田窓香さんの三名が出場しました。また、スポーツ科学教育講座の結城匡啓教授がスピードスケートのコーチとして参加されました。スピードスケートに出場した小平選手は、五〇〇mで十二位、一〇〇〇mで五位入賞、一五〇〇mで五位入賞、そして、チームパシュートでは、みごと銀メダルを獲得しました。また、小口選手は、リュージュ男子一人乗りで三十位、原田選手は、女子一人乗りで二十六位の成績をおさめ、日本代表として大活躍しました。

バンクーバー五輪に参加して

小平 奈緒（平成二十年度教育学部卒業）



バンクーバー五輪では、たくさんのご支援、ご声援ありがとうございました。

五輪出発前の壮行会では、ともに学んだ仲間や先生方に激励していただき、自信と期待を胸にバンクーバーへ向かうことができました。私にとって初めての五輪は、全四種目七レース、成

長とともに駆け抜けた五輪でした。初戦の五〇〇m、日本記録保持者として臨んだレースは、自分に対する期待が力みとなり実力を発揮することができませんでした。十二位という結果に落胆し、応援してくださる方々の思いに應えることができなかった悔しさがありました。一〇〇〇mでは、とにかく自分の滑りに集中することだけを考えてレースに臨みました。結果は、あと少しというところでメダルを逃しましたが、五輪という舞台で自分らしさを取り戻すきっかけとなったレースでした。一五〇〇mでは、最高のレースができました。五輪という特別な空気に呑みこまれることなく、その特別な空気に包まれていような心地よさがありました。そして最終種目のチームパシュート、私の役目は中盤の1周しかありませんでしたが、メンバーに支えられ銀メダルを獲得することができました。

悔しさに始まり、経験から学び、自信を感じ、たくさんの方と喜びを共有できた五輪。こんなに素晴らしい舞台で、大好きなスケートができたことに感謝しています。四年後のソチ五輪に向け、あと少しで届かなかった悔しさを晴らすべく、努力を積み重ねていきたいと思っています。そして、再びみなさんと喜びや感動を分かち合える日を信じて、夢にまっすぐ突き進んでいきたいと思っています!!!

三度目の五輪を終えて

小口 貴久（平成十七年度大学院教育学研究科修士）

信州大学に入学して一年目の冬に開催された長野オリンピックに、コースの状態を確認する前滑走者として参加したことがリュージュで世界を目指す大きなきっかけになりました。二〇〇二年ソルトレイ

クオリンピック（アメリカ）では、二人乗り種目で初参加しましたが、開始三十秒で転倒し失格、その悔しさをバネに参加した二〇〇六年トリノオリンピック（イタリア）では、男子一人乗り種目で二十位という結果を残すことができました。そして、今回三度目の挑戦となるバンクーバーオリンピック（カナダ）は男子一人乗りでの参戦となりました。男子スタートからの最高速度は時速一五〇kmを超え、転倒者の続出する難関コースでした。そのスピードにうまく合わせることはできず、順位は三十位と前回の大会を上回ることができませんでした。悔しさが溢れましたが、大学院で取り組んでいたスタートに関する研究を生かすことができ、自分の取り組んできたことが間違っていないことも実感することができました。不慮の事故があった中で、現地の方々の暖かいボランティア精神に包まれ、大学院での指導教官である結城教授、同研究室での後輩2名を含めた4人でバンクーバーの地で戦えたことなど、今までのオリンピックの中で最も印象に残る大会となりました。

前滑走者として参加した長野から今回のバンクーバーまでの四大会を信州大学とともに歩み、多くの同窓生の方々からご声援をいただき、支えられてきたことを誇りに思います。これからも生涯現役を貫きリュージュを続けるとともに、自分の経験してきたことが少しでも多くの人に伝わり、リュージュに触れてもらう機会が増えるよう活動していきたいと思っています。



オリンピックを終えて

原田 窓香（教育学部四年）



オリンピック期間中は、沢山のご支援・ご声援本当にありがとうございました。

私はトリノオリンピックに引き続き二度目のオリンピックというところで、張り切って臨んだわけですが、結果は非常に残念なものとなってしまい、張り

切り、意気込んでいた分だけ、ショックも大きく、応援してくださった皆さんには本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし帰国した私に皆さんはとても優しく声をかけてくださり、改めて皆さんの温かいお心遣いにとっても救われた気持ちになりました。二度目にして改めてオリンピックという舞台の偉大さ、難しさ、意義など考えることができました。

私は、学校を休学しながら競技活動をし、二度のオリンピックを経験、現在は復学させていただき、勉学に励んでいます。なかなか体験することの出来ないオリンピックを二度も経験させていただくなかで、信州大学の皆さんには沢山のご支援やご声援をいただき、またご迷惑をおかけしました。今後の進退は未定ではありますが、この経験を少しでも信州大学の皆さんや、地域の皆様にお返しできるよう模索していきたいと思っています。

最後になりました、改めて信州大学の同窓会の皆さん始め、諸先生方や学生の皆さんにお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

オリンピックに研究室から三名出場！

結城 匡啓（スポーツ科学教育講座）

今回のバンクーバー五輪に出場した小口貴久（リージュ、平成十七年度院修了）、小平奈緒（スピードスケート、平成二十年度生涯スポーツ課程卒）、原田窓香（リージュ、生涯スポーツ課程在学中）の三名は、いずれも結城研究室に所属していました。リージュに出場した二人のレースは、直接応援できませんでしたが選手村の専用テレビの前で正座して応援しました。選手村に全員が集合し記念撮影したときには、まるでゼミ室にいるかのような安堵感が漂いました。

『学生からメダリストを輩出したい』—そんな夢があつさり叶ってしまいました。勝負事に関わるせいか、身の回りに起こったことが自分にとって何を暗示し示唆しているのか、その意味を考える癖があります。学

部に戻り最初の教授会で着席するとき先生方から拍手をいただきました。自然に起こった拍手です。平静を装いましたが涙が出そうになりました。先生からマ



イナーな「パシユート」という言葉が出てきたことも感激でした。「良かったね」という先生よりも「惜しかったね」と言ってくれる先生が多いことも。小平はよくやりました。しかし、一〇〇〇mで頂点まで〇・二四秒、一五〇〇mでも銅メダルまで〇・二四秒、そしてパシユートでは〇・二秒足りませんでした。指導する立場として、このタイム差を自分がどうにかできなかったのかと今でも悔しい毎日です。今回の銀メダルは、日頃から〇・〇一秒を大切に、また学生と共に努力しなさいという意味に受け取ろうと思います。応援ありがとうございました。

学生主催の壮行会が開かれました

バンクーバー五輪の開幕が目前にせまる中、二〇一〇年一月二十一日には、小平奈緒選手、二月四日には、小口貴久選手と原田窓香選手の壮行会が開かれました。この壮行会は、先輩達のオリンピックでの活躍を応援しようと学生たちが提案し企画したもので、当日の進行も学生たちの手で行われました。多数の報道陣も出席する中、心温まる壮行会が開かれました。



深澤同窓会長より激励の言葉



中沢同窓会副会長より激励の言葉

同窓会情報

教育学部同窓会・研究補助事業について

本号でも、平成十五年度より実施しております同窓会研究補助事業についてお知らせいたします。

本事業の主旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切に、自らの授業改善に努めること、②専門職としての教師自らの教育研究・教育実践を磨くこと、③教育の振興・改善についての情報を共有していくことに置かれています。対象者は教育学部同窓会(同窓会費納入者)で、応募者一律に一万円を補助しています。

応募希望者は所定の様式(「研究補助願及び研究概要」)にしたがって、同窓会事務局(〒三三八〇一八五四四 長野市西長野六〇)にお申し込み下さい。当該年度の十一月末日を応募締め切りとしています。応募規定などの詳細な内容は、同窓会ホームページをご覧ください。なお、お申し込みの際には必ず事務局までお問い合わせ下さい(研究補助は十名までとなっております、受付可能かどうかの確認のためです)。

平成二十一年度助成交付の研究テーマ

- ①喜多篤史(信州大学教育学部附属特別支援学校)『「ひと」や「もの・こと」へのかかわりの特徴を生かして支援することによって、『もの・ひと・こと』へのかかわりが深まる授業づくりを追究する』
- ②北條亜岐(安曇野市立三郷小学校)

「相手や目的を意識しながら、体験したことをもとに、伝えたいことを進んで書き表そうとする子どもを育てる指導のあり方」

- ③野沢重徳(松本市立清水中学校)

「自らを拓く技術・家庭科の学習・マイ箸づくりを通して」

- ④吉池朋子(長野市立西条小学校)

「題材に思いを寄せ、心をひらく図画工作とは」造形遊びでの子どもの具体の姿より」

- ⑤佐々木直人(長野市立緑ヶ丘小学校)

「自然の実物現象を継続的に観察し、実際の時間・空間の中で具体的な自然の存在や変化をとらえる児童を育てる指導のあり方」

- ⑥郡上典雄(大桑村立大桑中学校)

「職員が目標を共有して取り組む、小中一貫教育への道(四年間のまとめ)」

- ⑦白倉雅弥(佐久市立田口小学校)

「意欲的に学び合い、自然を主体的に探求する力を育てる理科学習」小学校理科 室内でできる『流れる水のはたらき』モデル実験の教材作成」

- ⑧水野僚子(信濃町立野尻湖小学校)

「読みの方向性を明確にした授業づくり」一年国語『くじらぐも』を通して」

- ⑨酒井義(長野市立松代中学校)

「学校目標具現のための『明日も早く行きたい学校づくり』プロジェクト推進のあり方」

- ⑩銭谷清子(長野市立朝陽小学校)

「学級において要特別支援児にあえて打ってだての模索」

以上が、平成二十一年度における補助金交付者及び研究テーマに関する一覧です。これらを大いに参考にしていただき、積極的に応募していただきますよう、よろしくお願いいたします。

助成による実践研究

信州大学教育学部附属特別支援学校
喜多 篤史

中学部では、本校所在地である南堀地区で、栽培したいちごの販売をしたり、育てた花を飾ったりして、南堀の方とかかわりながら生活しています。冬の生活単元学習では、畑で収穫した大根でおでんを作り、南堀の方に食べてもらおうという活動を行いました。おでんを調理する「おでん班」と、おでんの屋台に付けるのれんやのぼりを作る「のぼり班」に分かれて活動を進めました。

おでんを食べてもらった際に、おでんやのぼりの感想をアンケート用紙に書いてもらいました。その中には、「大根にしっかりと味がしみていますね」「のぼりが丈夫に縫えていて、字もきれいに書いていますね」など、たくさん励ましの言葉がありました。寄せられた感想を知った生徒たちは、「中身の肉団子が見えないようにきれいに包んだロール白菜にしよう」「遠くからでも分かりやすいように、太くて縁がきれいな字を書こう」「○○さんにまた食べてもらおう」と、自分たちの活動により具体的な目標をもてたり、おでんを届けることに一層期待感を膨らませました。

毎日南堀地区におでんを届けているうちに、より多くの南堀の方と知り合うことができたり、これまで以上に親しく関われる方が増えたりしてきました。これからも、より多くの方とかかわりながら生活していきたいと考えています。



就職状況

就職部長 土井 進

本学部の同窓会の皆様には、平素学生の就職支援活動に多大なご協力を賜り心より御礼申しあげます。

さて、平成二十一年度の本学部、大学院教育学研究科の就職状況は、下の表の通りとなりました。学部生二九七名についてみますと、教員一八七名、会社員四十四名、公務員十六名、進学三十四名、その他十六名となっています。このうち教員一八七名について詳しく見ますと、正規採用が七十七名で、非正規採用、いわゆる臨採が一〇名となっています。教員採用試験がいかに難関になってきているかを示しています。就職部会ではこうした状況に対応し、一人でも多くの正規採用者を輩出するために、教採合格者の体験談(十二月)、教員採用模擬試験(十二月、三月)、模擬集団面接(五月)、模擬個人面接(八月)を実施しています。また、次の三点を学生に勧めています。

一、少しでも早く教採の勉強を開始すること

二、自分の進路をよく見つけ、教職への意欲を高め、試験を甘く見ている油断を払拭していくこと。

三、複数県の受験に挑戦すること

東京都をはじめとする関東各県の試験日は、長野県と同日に実施されるようになりました。長野県を第一希望とする学生には、愛知県、大阪府、京都府などの複数受験をするように勧めています。

三、学習チームを作って切磋琢磨すること

試験範囲は教職教養、専門教養、一般教養、小論文、音楽・体育の実技試験、集団面接、個人面接と多岐にわたっています。勉強仲間を作って共々に難関を乗り越えて欲しいと願っています。

同窓会の皆様には、今後ともより一層のご協力をお願い申し上げます。

平成21年度卒業生・修了生 進路状況

学部 (学習分野)・ 大学院別			就職・進学部		就 職																	進 学 者										現 家 臨 未 合 備					
					県 内							県 外							教 員 外					大 学 院													
					小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特 別 支 援 学 校	幼 稚 園	そ の 他	小 計	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特 別 支 援 学 校	幼 稚 園	そ の 他	小 計	計	公 務 員 一 般	会 社 理 員	病 院 施 設	福 祉 施 設	そ の 他	小 計	大 学 院 一 部 学 校	大 学 院 他 大 学	専 門 学 校	そ の 他	小 計	職 教 員		探 待 定	合 計			
学 部	教 員 養 成 課 程	学 校 教 育	臨牀学校教育学	男	1 (1)							1 (1)	1																						2		
			総合・生活科教育	男	1 (1)									1 (1)	5 (4)					1			1		2								1		8		
			国語教育	男	1	1 (1)								2 (1)	2 (1)												1								5		
			社会科教育	男	1 (1)	1	1							3 (1)	1 (1)		1 (1)																		5		
			数学教育	男	1 (1)	4 (3)								6 (5)	1						1														9		
			理科教育	男	6 (1)		1 (1)	1 (1)						8 (3)	3			1																	14		
			音楽教育	男	1 (1)	2 (2)								3 (2)	3 (1)				1												2			1	11		
			美術教育	男	2 (1)	9 (7)								11 (8)	2																2				19		
			保健体育科教育	男		4 (3)								4 (3)	1																1				7		
			情報・技術教育	男		6 (3)	1							7 (3)	2 (1)	3 (3)					2	2													18		
			ライフプランニング教育	男										4 (2)	3 (1)																					8	
			英語教育	男	4 (3)	1								1																						1	4
			国際理解教育	男	2 (2)		1 (1)							2 (2)	1																					5	
			環境教育	男	1	4 (3)								5 (3)	3 (1)																					10	
			部	教 員 養 成 課 程	学 校 教 育	保健体育科教育	男	4 (4)							5 (5)	3 (1)																					2
情報・技術教育	男	3 (2)				1								4 (2)	1																				6		
ライフプランニング教育	男	7 (3)				2 (1)								10 (5)	3																					16	
英語教育	男					4 (3)								4 (3)	1	1 (1)																			11		
国際理解教育	男	2 (2)				1 (1)								3 (3)	1																					5	
環境教育	男	1				4 (3)								5 (3)	1																					9	
コンピュータ利用教育	男	1 (1)				1 (1)								2 (2)																						3	
養護学校教育	男	2 (2)												1 (1)	1 (1)																					5	
教員養成課程計	男	23 (5)				23 (5)	4 (2)	2 (2)						52 (34)	14 (4)	5 (4)	1 (1)	2																		20	
生涯スポーツ課程	男	22 (4)				20 (5)								58 (42)	27 (9)	4 (2)		3	1																	13	
教育カウンセリング課程	男	45 (29)				43 (30)	4 (2)	15 (3)	3 (2)					110 (76)	41 (3)	9 (6)	1 (1)	5	1																	241	
非教員養成系計	男	2 (2)				2 (2)	1 (1)							5 (5)	7 (2)		1 (1)																			30	
学 部 計	男	25 (17)				25 (17)	5 (3)	2 (2)						57 (39)	21 (6)	5 (4)	2 (2)	2																		139	
教育学研究科	男	25 (17)				20 (15)								62 (46)	28 (20)	5 (2)		4 (1)	1																	158	
合 計	計	男				50 (34)	45 (32)	5 (3)	16 (4)	3 (2)				119 (85)	49 (36)	10 (6)	2 (2)	6 (1)	1																	297	
		女	1 (1)	3 (1)	1							5 (3)	4 (1)	1																			19				
		計	2 (1)	7 (4)	1							10 (5)	5 (1)	3 (1)																			39 (2)				

信州大学
教育学部
同窓会

第二十三回通常総会(通知)

日 時

平成22年8月11日(水)

午前10時より

会 場

長野市岡田町
「ホテル信濃路」

次 第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任
並びに書記の任命
5. 議事
第一号議案 平成21年
度事業報告及び歳
入・歳出決算報告に
ついて
第二号議案 平成22年
度事業計画(案)及び
歳入・歳出予算(案)
の承認について
第三号議案 役員の交
代について
6. 来賓紹介、代表挨拶
7. 閉会宣言

記念講演会：12時より

講師／結城 匡啓氏

祝賀懇親会：13時より

記念講演のご案内 (一般公開)

信大教育学部からオリンピック出場

そして夢のメダリスト誕生

信州大学教育学部 教授
結城 匡啓

バンクーバー冬季五輪が目前に迫った一月のことです。学部の在学生によって手づくりの壮行会が催され、学長先生、副学長先生もわざわざ松本から駆けつけて下さいました。多くのテレビカメラと報道陣にも囲まれ、小平曰く「いつもの教室が不思議な感じ」になりました。教育学部からオリンピック選手を送り出すことにどんな意義があるのか？ずつと問い掛けてきた自らへの一つの答えを在校生へのメッセージに乗せました。

「テレビで見ると小平のオリンピックでの勇姿に、日頃みんなが何かに打ち込み努力している姿を重ね合わせてみてほしい。同じ学部で学んだ仲間を誇りに、自分たちにもできるといふことを実感してほしい。そして将来教師や指導者になり、頑張ることを忘れた子どもたちに頑張ることの大切さ、すばらしさを伝えてほしい。」

スポーツは人生の縮図のようなものだと感じています。苦しみに耐えてやり抜く力、自分を含む人の弱さや痛みを気づく力、向上心をもって工夫する力、そして、自らを教育し

自己を実現しようとする力。やり方さえ間違わなければすばらしい教育実践の場であると信じています。

去る五月十日、メダリストとその指導者が皇居に招かれ、春のお茶会が催されました。幸運にも天皇陛下下ならびに皇太子殿下と直接お言葉を交わす機会に恵まれたときのことです。感激することが起きました。美智子様のお口から信州大学の先生ですね。学生さんが花を咲かせられよかつたです。お言葉をお交わささせていただいたのですが、皇后陛下から「信州大学」の名前が出てきた驚きと喜びのあまりほとんど覚えていないほどでした。

信州大学から日本に教育や研究の情報を発信していきたい。社会に貢献して『信州大学ブランド』を高め、高校生が憧れるような大学にしたい。微力ながらそんなことを夢みる一人の教員として、学生のスポーツ活動を通じて信州大学を認めていただいたことは光栄なことでした。スポーツの持つもう一つの潜在力に触れたひとコマでした。

当日は、学生との心のやりとりや葛藤についてエピソードを交えて話題提供させていただければと思います。

経 歴

- 一九六五年 北海道網走市に生まれる
- 一九九二年 スピードスケートワールドカップ五〇〇m第三位
- 一九九七年 筑波大学大学院博士課程体育科学専攻修了(博士(体育科学))
- 一九九八年 筑波大学体育科学系助手
- 一九九九年 現在 信州大学教育学部講師・助教授・准教授・教授

事務局便り

○研究補助受付中

研究補助申請を四月より受け付けております。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。

また、本号の六ページ・同窓会情報の欄をご参照ください。昨年度の助成交付の研究テーマなどが掲載されております。

○住所変更をお忘れなく

転居の際には住所変更の届を事務局宛てにお願い致します。メールでも結構です。

○会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いに注意してください。同窓会費は終身会費です。未納者には、後日、納入願いの書面が届きます。二重払いの場合にはお返ししますが、振り込み手数料等がかかりますので全額返金はできません。

事務局連絡先

電 話 026-238-4370
月・水・金 9:30～16:30
http://taaedu.shinshu-u.ac.jp
Email:kdousou@shinshu-u.ac.jp

専門は、スポーツバイオメカニクス、トレーニング論、コーチング論。

(財) 日本オリンピック委員会強化部 情報医科学専門委員

同 科学サポーター部会 副部長

(財) 日本スケート連盟 スピード強化副部長

記念講演終了後、「ホテル信濃路」において祝賀懇親会(会費四、〇〇〇円)を開催します。

こちらへも多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。